財務4表から分かる主な財務分析指標について

幸田町 監査委員事務局

1.実質純資産比率(単体会計)

- ・財務健全性を表す指標の一つで、経済的取引になじまないインフラ資産の価値をゼロとした時の純資産比率であり、財務的評価の最も標準的なものです。この比率が高いほど、財務の健全性が高いといえます。

	H22	H21
幸田町	0.77	0.76
全国平均	—	0.33

2.債務償還可能年数(単体会計)

- ・1年間に組織内に留保されるキャッシュ(内部留保)を全て公債の返済に充当するとして、返済可能となる年数を表したものです。民間企業の格付けでは最も重視される指標であり、年数が短いほど良いとされています。

	H22	H21
幸田町	8年	5年
全国平均	—	7年

3.流動比率(単体会計)

- ・財務健全性を表す指標の一つで、今後1年間の確定的な現金支払いに対する準備率です。この比率は、高いほど良いとされ、「1」を下回る状態は好ましくないと判断されます。

	H22	H21
幸田町	3.05	2.99
全国平均	—	1.01

4.住民一人あたり地方債(単体会計)

- ・住民一人あたりの地方債の残高を表すもので、低いほど良いとされています。

単位:千円

	H22	H21
幸田町	407	422
全国平均	—	611

5.住民一人あたり総行政コスト(普通会計)

- ・効率性を表す数値で、住民一人あたりのコストを評価するものです。

単位:千円

	H22	H21
	313	317

6.純資産比率(普通会計)

- ・公平性を表す指標の一つで、過去を含む現役世代と将来世代の負担の分担に関するストックの比率です。高いほど良いとされています。

	H22	H21
幸田町	0.90	0.90
全国平均	—	0.74

7.当期純資産変動額(普通会計)

- ・公平性を表す数値の一つで、過去を含む現役世代と将来世代の負担の分担に関するフローの金額です。

単位:千円

	H22	H21
	△ 478,949	338,393

8.受益者負担率(普通会計)

- ・公平性を表す指標の一つで、費用のうち、受益者が負担している割合がどのくらいかを表しています。高ければ財政的には良いが、住民にとっては負担が多いことを示しています。

	H22	H21
幸田町	0.03	0.03
全国平均	—	—

9.住民一人あたり社会保障関係支出(普通会計)

- ・公平性を表す数値の一つで、増大する一方の社会保障費を抑制する意味で示すものです。

単位:千円

	H22	H21
幸田町	38	24
全国平均	—	91

10.固定比率(普通会計)

- ・固定資産が返済を要しない純資産で賄うことができているかどうかを見るものです。この指標が低いほど、財政運営の自由度が高いことを示しています。比率が高い場合は、使用目的が決まっているものが多いことを示しています。

	H22	H21
幸田町	0.28	0.25
全国平均	—	0.22

11.自主財源比率(普通会計)

- ・自主財源のうち、税収の比率を表しているものです。

	H22	H21
幸田町	0.76	0.80
全国平均	—	—

【備考】

- (1)平成24年3月末時点で全国平均が集計されていない指標については、「—」が記載されています。
- (2)普通会計とは、地方財政状況調査上、統一的に用いられている会計区分で、本町の場合、一般会計に土地取得特別会計、幸田駅前区画整理事業特別会計の2つの特別会計を加えたものです。
- (3)単体会計とは、上記の普通会計に国民健康保険特別会計を始めとした6特別会計と水道事業会計を加えたものです。